

行政評価シート（事務事業評価）		評価年度	3年度
事業名	ごみ減量アクションプラン推進事業	担当課	市民生活課
事業内容(簡潔に)	ごみ減量アクションプランに基づき、市、市民、事業者が一体となりごみ減量・分別・適正処理を啓発、推進する。		

1 計画(PLAN):事務事業の計画的位置づけ

第7次総合計画での目的体系	基本方向	美しいふるさとを誇れるまちづくり
	政策	ふるさとの魅力と誇りを次世代につなげるまちづくり
	施策	資源循環型社会の構築
関連する個別計画等		根拠条例等

2 計画(PLAN):事務事業の概要

事業の目的	第2次ごみ減量アクションプラン（令和3年3月策定）に基づき、『チームにらさきで取り組む5%ごみ減量』をスローガンとして、令和5年度末までに一人一日あたり30gを削減する。（令和元年度の一人一日当たりの排出量550gを基準とする）
事業の手段	<p>市民・事業者に対しごみ減量アクションプランを周知し、ごみ減量に向けてのアクションを促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報や、情報誌（ニーラのエコ情報）による周知 ・武田の里フェスタにおいて環境ブースを設置し周知 ・子供向け環境学習会や一般向けの出前塾での周知 ・事業者への適正なごみ排出への周知及びアンケートの実施 ・2010運動の実施（パンフレットの配布） ・生ごみ処理機等購入費補助金として生ごみ処理容器及び処理機購入者に一部助成 ・平成30年度より生ごみ処理機等購入費補助金の対象に乾燥式生ごみ処理機を追加
事業の対象	全市民及び市内事業者

3 実施(DO):投入費用及び従事職員の推移(インプット=費用+作業)

		30年度	元年度	2年度
A	事業費 (千円)	189	135	273
財源内訳	国・県支出金	25	25	0
	その他(使用料・借入金ほか)			
	一般財源	164	110	273
B	担当職員数(職員E) (人)	0.40	0.40	0.40
C	人件費(平均人件費×E) (千円)	2,630	2,686	2,745
D	総事業費(A+C) (千円)	2,819	2,821	3,018
主な事業費用の説明	周知及び武田の里フェスタで使用する啓発物品。生ごみ処理容器補助金。			

注)平均人件費は各年度決算額(職員給与費)から算出した30年度(6,862千円)、元年度(6,715千円)、2年度(6,575円)を使用しています。

4 実施(DO):事業を数字で分析(アウトプット=事業量)

	指標名	指標の算出方法	実績値		
			30年度	元年度	2年度
活動指標	1 説明会回数	説明会、出前塾の年間回数	15	22	23
	2 エコ情報発行回数(広報含む)	年間発行数	3	3	3
	3 20・10運動参加店		40	40	39
妥当性	<input type="checkbox"/> A 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C 妥当でない				
上記活動指標と妥当性の説明	1	ごみ減量アクションプランを周知するための各地区へ赴き説明会を開催。各地区への周知終了後はイベントや出前塾でごみの減量について説明会を開催。			
	2	ごみ減量アクションプランの一つ。「見える化」の実践。			
	3	ごみ減量アクションプランの一つ。家庭や飲食店での食品ロスに対する取組。新型コロナウイルスの影響で、参加店の拡大を図ることができていない。			

5 評価(CHECK): 事務事業評価 (アウトカム=成果・効果)

	指標名	指標の算出方法	実績値		
			30年度	元年度	2年度
成果指標 もしくは まちづくり 指標	1	ごみ排出量 (t)	5,967	5,931	5,953
	2	資源物収集量 (t)	675 (47)	655 (51)	633 (55)
	3	1人1日当たりの排出量 (g)	545	548	560
成果		<input type="checkbox"/> A 上がっている <input type="checkbox"/> B ほぼ上がっている <input checked="" type="checkbox"/> C 上がっていない			
上記指標の妥当性と成果の内容説明		1	ごみ排出量が令和元年度までは減少傾向であったが、令和2年には上昇した。新型コロナウイルス感染症による巣ごもりや断捨離の影響と考えられる。		
		2	資源物収集量は年々減少しているが、ミックス紙収集量は増加傾向にある。		
		3	アクションプランにて平成30年度末までに平成26年度実績(548g)から5%減(520g)を目標としていたが、横ばいである。令和2年度は新型コロナウイルス感染症によるごみの増加を受け、排出量が増加した。		

事務事業総合評価	<input type="checkbox"/> A 期待以上に達成 <input type="checkbox"/> B 期待どおりに達成 <input checked="" type="checkbox"/> C 期待以下の達成
----------	--

6 改善(ACTION): 今後の事務事業の展開

今後の事業展開	<input type="checkbox"/> 拡大 (コストを集中的に投入する) <input type="checkbox"/> 一部改善 (事務的な改善を実施する) <input checked="" type="checkbox"/> 全部改善 (内容・手段・コスト・実施主体等の見直しが必要) <input type="checkbox"/> 縮小 (規模・内容を縮小、又は他の事業と統合する) <input type="checkbox"/> 廃止 (廃止の検討が必要)	
事務事業の改善案	改善の概要・方向性 (いつまでに、どういう形で具体化するのか)	
	令和3年度の改善計画 (今後の事業展開説明)	
	<p>令和2年度に策定した、第2次ごみ減量アクションプランに基づき、『チームにらさきで取り組む5%ごみ減量』をスローガンとして、令和5年度末までに一人一日あたり30gを削減する。(令和元年度の一人一日当たりの排出量550gを基準とする) そのために、ごみの分別マニュアル・事業者向けパンフレットの作成や、生ごみ減量に向けた水切り具の配布やyoutube動画による周知を行う。</p> <p>新型コロナウイルス終息後は、武田の里フェスタ葦崎でのブースを利用した啓発や、出前塾等でごみの減量化に向けた学習会等を実施する。</p> <p>20.10運動については、新型コロナウイルス感染症状況により、啓発を検討していく。</p>	
過去の改善経過	改善の経過	平成27年度 ごみ減量アクションプラン策定 令和2年度 第2次ごみ減量アクションプラン策定
	直近の評価結果	内部評価 令和元年度 <input type="checkbox"/> 拡大 - <input checked="" type="checkbox"/> 一部改善 <input type="checkbox"/> 全部改善 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止
		外部評価 令和元年度 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 一部改善 <input type="checkbox"/> 全部改善 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止
改善案	ごみの減量化のため、市民の意識レベルの向上を目指し、これまで以上に、市の広報やHP等で情報提供を行い、意識改善をめぐる。なお、継続して各種啓発や環境教育を通して推進を図るとともに、これまでの検証を踏まえ、第2期ごみ減量アクションプランの策定に着手する。 また、ごみ袋の記名制やごみ処理の有料化の導入等を検討していく。"	
課長所見	令和2年度に第2次ごみ減量アクションプラン(計画期間: 令和3~5年度)を策定し数値目標や今後の課題等を明確にしているため、3年間という短い計画期間においてはスケジュール管理が非常に重要になると考えている。	